

## 棕の道草 第48号 「雀鷹の会へようこそ」

近藤千津子

2022年1月、定例句会の無い第五土曜日に夏雲システムを利用して何かできないものかと石田代表にご相談し、自主句会を立ち上げる運びとなりました。

投句数等々約束事を代表に確認し、「雀鷹(つみ)の会」と命名して頂きました。

初回は様子見も兼ねてVol.0として施行した次第ですが、HP部の白崔さんにお声掛けしたところ棕HPメールマガジンにご登録されている方を中心にご案内くださり、急遽の開催だったにも関わらず30人以上の方のご参加を賜りました。

以降、4月、7月、10月、12月と順調に回を重ねております。

普段の常設句会ではご一緒されていない方と句会を行う場としては棕の実句会がございいますが、雀鷹の会は自主句会として行っており、代表にも皆さんと同じ選句の数でご参加頂いています。

結果が出るまで投句した顔ぶれが分からなかったり、普段とは違う句柄で出される方がいたり楽しい場になっております。

令和五年(2023)年の第五土曜日は4月、7月、9月、12月。

棕の常設句会に参加されていて夏雲システムでも投句されている方は、是非ご参加ください。

但し、事前のご案内などはお送りしておりませんので、第五土曜日が近づきましたら棕のオンライン句会会場を開いて頂き、「[自主句会]雀鷹(つみ)の会」を見つけてご投句賜れば幸いにございます。

これまでの開催から作品をご紹介します。

	Vol.0(1月)より
ひとりの夜撫でて兔を平たくす	克憲
春信の山路に拾ふ鳥の羽	雀
	Vol.1(4月)より
鉄棒の四つの高さ鼓草	翠筆
掌に朝の花がら復活祭	くるみ
	Vol.2(7月)より
家一軒百日紅ごと売りに出て	星野梨子
明け方の鯛を聴き尽くしけり	雀
	Vol.3(10月)より
眼差しの限りに秋を惜しみをり	飄々子
秋惜しむポップコーンの指舐めて	りん